

ポイント（２）学校経営のビジョンと学校評価の関係

学校経営のビジョンを明確にして、焦点をしばって評価に取り組む。

学校評価における目標のとらえ方

学校にはさまざまなレベルの目標が存在し、これらは、学校教育目標などの上位目標から、下位目標へと次第に具体化していくしくみになっています。これまでは、学校の経営目標や重点目標を意識して、教育活動や学校運営にあたるという考え方が欠けがちでした。これからは、校訓や教育目標を踏まえ、育てたい生徒像や学校の将来像を明らかにした「ビジョン」が必要です。この「ビジョン」を達成するために、学校がいま最優先で取り組むべき具体的な課題や目指すべき状態を年度の重点目標に設定します。そして重点目標の達成に向け、各校務分掌ごとに努力目標や具体策を検討し、その達成に向けた年間計画を計画し、実施し、評価するということになります。

学校教育目標

自校の存在理由や意義、使命を表すもの（ミッション）

学校の経営目標

学校の将来像や理想像を明らかにするもの（ビジョン）

重点目標

年度ごとに学校全体で取り組むべき課題や目指す状態

校務分掌ごとの努力目標及び具体策

学科、学年、各部・係、教科が本年度に取り組む内容や達成度を表すもの

重点目標、各校務分掌などの努力目標及び具体策と評価項目の関連

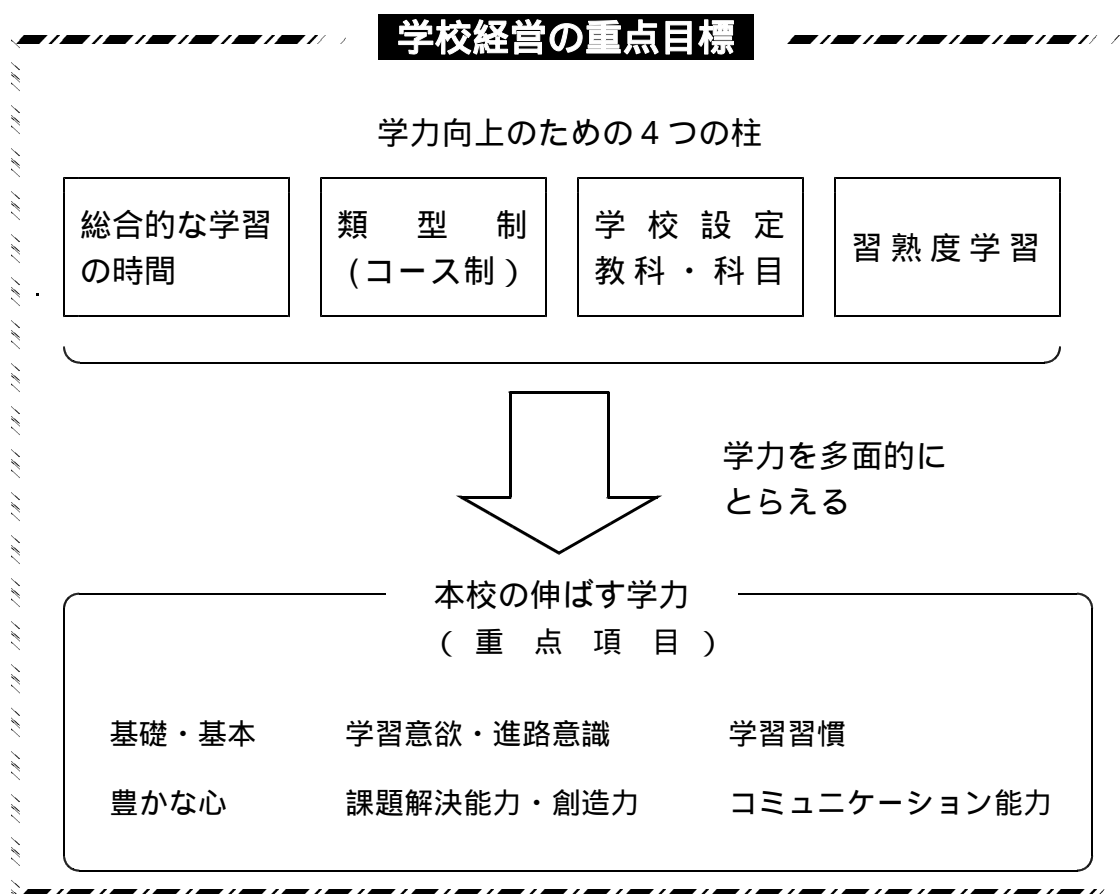
学校評価の対象となる教育活動や学校運営の内容は多岐にわたります。そのため、より具体的で評価しやすい項目を設定しようとして、校務分掌ごとに検討した案を集めると、膨大な項目数になってしまいます。そこで、具体的な目標や方策の中から、複数の部・係が連携して行う必要のある重要度の高いものを選び出し、学校全体で行う評価項目として設定するようにします。

一方、日々の授業や各校務分掌の運営を円滑に進めるためには、学校全体で行う評価以外にも多くの自己点検項目が想定されます。これらについては、自己点検の判断基準を明確にしておいて、担当レベルですみやかに改善できるようにすることが大切です。

➡ 【ポイント(2)の事例】

次の事例は、学校経営の重点目標に基づき、学校評価システムを運用しているものです。数年間にわたって取り組む重点目標を決めて、その評価を行いながら改善を進めようとするものですから、評価項目もしぼられるため、改善策を設定しやすく改善の手応えが実感できる進め方であると考えられます。

〔事例(2)〕学力向上を学校経営の柱に据えて取り組んでいる。学力をとらえる観点を複数設定し、全教科及び部・係が取り組めるようにしている。



PDCAサイクル

計画(Plan)

具体的な取組

(例)「学習意欲・進路意識」と「課題解決能力・創造力」の育成をめざして、3年間の「総合的な学習の時間」の体系化を図る。

1年「職業理解・自己理解」 2年「進路研究」 3年「課題研究」



実施(Do)



評価(Check)

教職員の自己評価 生徒の評価

評価による実態把握

教職員の自己評価によって「改善が必要」と判断された項目

- ・進路指導に関する相談やガイダンスは充実しているか。
- ・保護者に対して「総合的な学習の時間」のねらいを伝えているか。
- ・総合的な学習の時間の趣旨を生徒に理解させたり、主体的な取組を促したりしているか。

生徒アンケートによって課題が明らかになった項目

- ・あなたは途中で類型(コース)を変更したいと思いましたか。
- ・あなたにとって類型(コース)別の授業はどうでしたか。



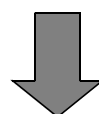
改善(Action)

評価結果に基づく改善策

3年間の「総合的な学習の時間」のシラバスを作成する。

体験的な活動を新たに取り入れる。

類型(コース)選択のためのガイダンスの充実(外部講師を依頼)。



次年度の計画へ